

比奈の

お菊さんと一町六反

平成九年五月五日号

比奈にある市立昭和幼稚園の片隅に「お菊塚」があり、毎年六月上旬には、園児と父母による「お菊まつり」が行われています。

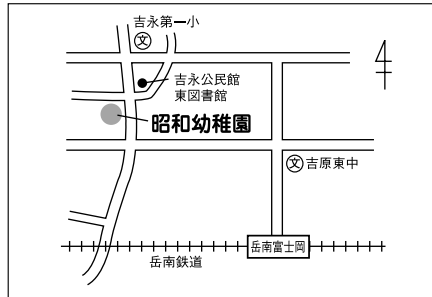
江戸時代にまつわる働き者のお菊さんと一町六反の話を紹介します。

東国のお菊さんは、若いころ遊ぶことが大好きで、毎日毎日遊びほうけていました。しかし、ある晩、死んだ父親の夢を見て今までのことを反省し、働かなくてはいけないと決心しました。

東海道を西に下って比奈村まで来たお菊さんは、景色のよいこの村が気に入り、住むことにしました。そして、百姓の手助けをして、朝から晩まで村人が驚くほどよく働きま

した。いつしかお菊さんは、村人にかわいがられ、そのうち自分でも田を買って一町六反の田をつくるようになりました。

その日もお菊さんは、朝早くから田植えをしていました。もう少しで終わろうというとき、太陽が西の山に沈もうとしていました。「ああ、お天道さまが、もう少し待ってくれたらなあ」。するとどうでしょう。沈みかかってい





▲ お菊塚

た夕日が、西の山から顔を出してきたではありませんか。「ありがたや。ありがたや」と言つて、田植えが終わると、お菊さんはそのまま倒れて死んでしまいました。

それから後、この付近の田を、だれかれとなく一町六反と言うようになり、お菊塚が建てられたということです。

高橋富美子さん（比奈）

ことしのお祭りは、六月六日に行う予定で、園児が折り紙でお飾りをつくったり、お供え物をしたりします（平成九年）。また、私たちPTA役員も協力して、この園に代々受け継がれているPTA手づくりの大型紙芝居も行います。

この民話は、園歌の三番の歌詞にもなっていて、子どもたちからも「働き者のお菊さん」の話として親しまれています。この民話を通して「頑張って働くことはよいことだ」ということが子どもたちに伝わり、我慢強い子どもになってくれたらいいなと思っています。また、この地域の民話として、幼稚園の子どもから親に、そして地域の皆さんに広まっていくといいですね。